第二講『たまきはる』　法政大学

次の文章は、建春門院（平滋子、後白河天皇女御）に仕えた女性が著した日記文学の一節である。作者が病気で家にこもっている間に、建春門院が発病し崩御したことが書かれている。これを読んで、後の問いに答えよ。

その夏ごろ、久しく籠（こも）り居（ゐ）たりし水無月（みなづき）のほどより、御薬（みくすり）の事、大方（おほかた）の世にもおどろおどろしく言ひ騒ぎ、御祈りなど数知らず始まると聞けど、年ごろの御有様（ありさま）、御歳（とし）のほどを思ふに、さばかりの事とやは思ひかけし。ただしばしも、所狭（ところせ）き御薬の事を心苦しう、おぼつかなく思ひまゐらするも、静心（しづごころ）なし。去年（こぞ）、今年などは、年ごろよりも[a]なつかしううれしき御気色（けしき）のみ見ゆるに、ただ我が身一つの心地（ここち）して、日々に*冷泉殿（れいぜい）のもとへ申せば、細やかなる御返事にて、「『まことにさぞ思ふらん。有様細かに言へ』と仰（おほ）せある」などあるに、いとどしき心の中（うち）なり。

六月二十六日の夕（ゆふ）つ方（かた）、あからさま[i]に参りて、*折節（をりふし）なき事思ひ立つよし申す、それも人々のはからひなれば。このほどの事どもに、おはしまし所（どころ）も変はりて、東（ひんがし）の台盤所（だいばんどころ）と言ひし方（かた）へ参りたれば、やがて御声も聞こゆ。「このほどは、*御修法（みすほふ）どもに、局（つぼね）もみなふたがりてなければ。まことに疾（と）く蒜召（ひるめ）して、よくなりたらんに、疾（と）く疾く参らせ給へよ」と仰

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

せらるる御声も、ただ例の同じ事なれば、①ものはかなき心に、何事かはとうち思ひて出でぬ。明くる日よりその事始めて、暑くわびしけれど、文は日毎(ごと)に参らす。

七月七日、堪(た)へがたく暑きに、この事も果てⅱにしむつかしさに、髪洗ふほどに、いかにしたりしにか、心地限りなく損(そこ)なひて、絶え入りなど言ふばかり、人々も騒ぎたりしつとめて、あるかなきかの心地するに、日ごろ、「ただ同じ御事」とのみありつる冷泉殿の返事に、「*はやくにておはしませば、申すばかりなし」とばかりあるを見る心地は、何ⅲにかは似たらん。なべての世、誰(たれ)かは思ひ嘆かぬ人あらん。されど、うち向かひたる人々も、②我が思ふばかり、誰かはあらん。置き所なき心地ぞする。

九日ぞ、人々出(い)だし立てしかば、泣く泣く参りたれば、あやにくに音する人もなく静かなり。近く候ひける人は、日ごろにいたくb困(こう)じにければ、うち臥(ふ)し休むにや、ただおのがどち忍びやかにうち群れ居たれど、物言ふ声もせず。ましてつつましう恥づかしければ、晴るる方もなくて出でぬ。

折節なきその匂ひなど失ひてぞ、御忌(い)みのころ、しばし候ひし。さきざきは、もとあるを取り捨てて、小さきを植ゑられ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

し萩、女郎花、わがままに所得て、縁の上まで咲きこぼれたる盛りさへ恨めし。

　露消ゆる憂き世に秋の女郎花ことしも知らぬ色ぞ悲しき

それより、女郎花のうとましきこそcあいなけれ。

*常陸とていと若きが、近く馴れ仕うまつりし、ことわりと言ひながら、え堪ふまじき気色なり。通るとて髪のすそを見て、「*これは御手のままな」とて、やがて押しあててうつ臥し臥したるに、いと忍びがたし。

　忘られぬその面影に恋ひわびてわが黒髪を形見とや見ん

その後は、この*養ひ立てし姉のもとに、つくづくと明かし暮らすに、*大方の世に静かならず、波の騒ぎに風のみ頻きつつ、さまざまあわたたしくゆきかはん春秋につけても、心憂しと聞こゆる事のみ多かり。この居たる所も、人の心づかひいと苦しうなりゆくままに、さてもえあり果つまじき故のみ聞こえしかば、母と頼む人も思ひわづらひて、我が身こそあらめ、さすがに老い果てぬ人さへ、かくむつかしき世にまじらはせて、とかく言はれんもあいなしなど思ひ乱れて、二十四になりし冬、今さらにもとの所に帰りにしかば、あやにくにひきかへ見慣らはぬ心地のみして、明かし暮らす。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（『たまきはる』より。文章を一部省略した）

〔注〕
＊冷泉殿　建春門院の姉で、建春門院に仕える女房でもあった。
＊折節なき事　蒜（ひる）（にんにくの類）を服し、養生をすることを指す。家族の勧めにより、作者はこれを行うことにしたが、その間はにおいのため、出仕することはできない。
＊御修法　建春門院の病気回復のために行われた加持祈祷（きとう）。
＊はやくにておはしませば　「危篤でいらっしゃるので」という意味。
＊常陸　作者の同僚の女房。
＊これは御手のままな　「この髪は建春門院がお削ぎになったままですね」の意味。作者の髪は、いつも建春門院が削いで整えていた。
＊養ひ立てし姉　作者を養育した異母姉の京極殿。当時、後白河院亮子内親王に仕えていた。
＊大方の世に静かならず　源平の争乱を指す。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部a「なつかしう」b「困じ」c「あいなけれ」の本文中における意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ選べ。

a「なつかしう」
ア　かわいらしく　イ　昔が偲ばれ　ウ　親しみが感じられ
エ　いじらしく　オ　晴れやかで

b「困じ」
ア　疲れて　イ　混乱して　ウ　平静が保てなくなって
エ　とまどって　オ　準備を怠って

c「あいなけれ」
ア　当然だった　イ　哀れである　ウ　筋が通らないことだ
エ　つらかった　オ　不憫である

問二　二重傍線部ⅰ～ⅲ「に」の文法的説明として最も適切なものを次の中からそれぞれ選べ。

ア　格助詞　イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形
ウ　断定の助動詞「なり」の連用形　エ　副詞の一部
オ　接続助詞　カ　形容動詞の連用形活用語尾

ⅰ＝　ⅱ＝　ⅲ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部①「ものはかなき心に」の本文中における解釈として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　明日をも知れぬ不安な気持ちで　　イ　修法の効果が上がらない状況に
ウ　弱々しい建春門院のご様子に　　エ　たわいなく、浅はかな考えで
オ　世の無常を思い知りつつ

問四　傍線部②「我が思ふばかり、誰かはあらん」を現代語訳せよ。なお、その際、「我が思ふ」については、どのような思いであるかを明確にすること。

問五　波線部「恨めし」とあるが、作者はなぜそのように感じたのか。その理由を次の形式に従って記せ。

から。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　次の中から本文の内容と合致するものを一つ選べ。

ア　建春門院が病気になり、回復のためにさまざまなことが行われたが、作者は、建春門院が日ごろは元気であることとまだ若いことから、全く心配していなかった。

イ　家にこもっている作者に対し、冷泉殿は、「彼女の気遣いはもっともなことであるから、病状について事細かに伝えよう」と考え、しばしば便りを送った。

ウ　夏のとても暑い日、建春門院は髪を洗っている時に危篤に陥ったが、作者はそれを冷泉殿からの手紙で知り、二日後、悲痛な思いで参上した。

エ　作者の髪のすそまでも建春門院を偲ぶよすがとする常陸の様子に、作者は「彼女も、私の髪さえ形見と思うほど建春門院を慕い続けているのだ」と心を動かされ、さらに悲嘆にくれた。

オ　建春門院の崩御後、作者は姉と暮らし始めたものの、そこも居づらくなり、里に帰ったが、何かとあわただしい姉のところとは違い、昔からなじんだ実家であるため、次第に心が穏やかになってきた。

問七　『たまきはる』は鎌倉時代に書かれた作品である。同時代に成立した作品を次の中から二つ選べ。

ア　万葉集　　イ　方丈記　　ウ　紫式部日記　　エ　栄花物語
オ　古事記伝　　カ　伊勢物語　　キ　和漢朗詠集　　ク　東海道中膝栗毛
ケ　愚管抄　　コ　雨月物語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　復習問題

① ⅰ「便なくや候ふべからん」、ⅱ「せんずらん」の文法的説明として最も適切なものを次の中からそれぞれ選べ。

ⅰ「便なくや候ふべからん」

イ　形容詞「便なし」の連用形＋間投助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ロ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ハ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の連体形

ニ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の連体形

ホ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ii 「せんずらん」

イ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形
ロ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形
ハ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形
ニ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形
ホ　動詞「せんず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

②　次の傍線部iとiiの「なむ」の文法上の説明として正しいものを後の中からそれぞれ選べ。

「世をそむき i <u>なむ</u>」とのたまひければ、「名高くおはする君だちにおはするに、びんなく侍りなむ」と否び申しけれど、かねて御髪をきりておはしければ…〈中略〉…次の夜、寺の大阿闍梨の房へおはしたりけると ii <u>なむ</u>。

イ　強意を表す助動詞「ぬ」の未然形「な」に、推量を表す助動詞「む」がついたもの
ロ　強意を表す助動詞「ぬ」の未然形「な」に、意志を表す助動詞「む」がついたもの
ハ　反語を表す係助詞
ニ　強意を表す係助詞
ホ　詠嘆を表す終助詞
ヘ　他への願望を表す終助詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③
「年ごろ」の現代語訳として最も適切なものを次の中から選べ。

イ　若年　ロ　適齢期　ハ　年配　ニ　多年　ホ　先年

④
『今鏡』と同じジャンルの作品を次の中から一つ選べ。

イ　日本書紀　ロ　吾妻鏡　ハ　古今著聞集　ニ　平家物語　ホ　栄花物語

⑤
『宇治拾遺物語』は鎌倉初期頃成立の説話集であるが、次の中から説話集ではないものを一つ選べ。

イ　今昔物語集　ロ　宝物集　ハ　無名抄　ニ　撰集抄　ホ　古今著聞集

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第二講】

〈模範解答〉

問一　a　ウ　b　ア　c　ウ

問二　i　カ　ii　イ　iii　ア

問三　エ

問四　自分ほど建春門院のことを慕い、その危篤を自分よりも心配するものがいようか、いや、いないだろうと思われる

問五　建春門院が亡くなったのに、その悲しさも知らないような様子で、萩や女郎花が美しく咲きこぼれている（のが恨めしく感じられる）

問六　エ

問七　イ、ケ

〈現代語訳〉

その夏ごろ、（私が病気で家に）長くこもっていた六月ぐらいから、（建春門院様の）ご病気のことについて、世間一般の人もひどく言い騒ぎ、お祈りなども数知れず始まったと聞いたが、長年のご様子と、ご年齢のことを思うと、それほどのこととは予測したか、いや、していなかった。ただしばらくでも、やっかいなご病気のことを気の毒に、気がかりにお思い申し上げているのも、落ち着かない。去年、今年などは、例年よりも親しみが感じられ嬉しいご様子ばかり見えたので、ただ私一人だけの心配事のような気がして、毎日冷泉殿のところへお手紙をさし上げたところ、細やかな心づかいのご返事で、「『本当に（そなたは）心配しているだろう。様子を詳しく知らせてやれ』という（建春門院様の）お言葉がある」などとあったので、ますます（建春門院様を）お慕いする気持ちになるのである。

六月二十六日の夕方、ほんのちょっと参上して、都合の悪いこと〔＝にんにくの類を服して養生することにしたが、その間は

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

においのために出仕できないこと」を思い立ったと申し上げる、それも家人の計らいであるので（従うしかない）。このご病気のために、（建春門院様の）おいでになるところも変わって、東の台盤所と呼んだあたりへ参上したところ、すぐお声も聞こえる。「このほどは、病気回復のために行われた加持祈禱で、部屋はすべてふさがっていて（部屋も）ないので（しかたがない）。本当にはやくにんにくの類を召し上がって、よくなったら、すぐにすぐに出仕せよ」とおっしゃるお声も、ただいつものように同じだったので、たわいなく浅はかな考えで、（ご病気に）何の心配があろうか、いや、ないだろうとつい思って退出してしまった。明くる日からそのにんにくの類による養生を始めて、暑くてやりきれないけれど、手紙は毎日さし上げる。

七月七日、たえがたいほど暑いが、このにんにく養生もすっかり終わった不快さに、髪を洗っているとき、どうしたのだろうか、気分がこのうえなく悪くなり、死ぬなどと言うほどに、家人たちも騒いでいた翌朝は、生きているのかいないのかわからないほどの（衰弱しきった）気持ちだったが、この数日間は、「（建春門院様は）ただ同じご様子です」とだけあった冷泉殿の返事に、「ご危篤でいらっしゃるので、何とも申し上げようがない」とだけあるのを見る気持ちは、何に似ていようか、似るものがないほどに悲しい。世間一般で、思い嘆かない人があろうか、いや、誰もが思い嘆く。しかし、顔を合わせる家人たちも、自分ほど（建春門院様のことを）慕い、その危篤を思い嘆く人はほかにいようか、いや、誰もいないだろう。心の置きどころもない気持ちがする。

九日、家人が（私の）出仕を許したので、泣きながら参上したところ、あいにく声を立てる人もなく静かである。（建春門院様の）近くにお仕えしていた人は、ここ数日の看病にひどく疲れてしまったので、ちょっと横になって休んでいるのであろうか、ただ他の女房たちが数人ずつ集まってしんみりしていたけれど、物を言う声もしない。まして（自分は）気がひけて恥ずかしかったので、気持ちを慰める手だてもなく退出した。

都合の悪い（にんにくの類の）そのにおいなどが消えて、御喪の期間、しばらく伺候した。以前、もとあったのを取り捨てて、小さいのを植えたあの萩や、女郎花が、伸び放題になっていて、縁の上にまで咲きこぼれている盛りまでもが恨めしい。

露消ゆる…＝建春門院様が亡くなってつらいこの世に、秋の女郎花は今年も、そんな事情も知らぬ顔で美しい色に咲いているのが悲しい。

それ以来、女郎花がうとましいのは筋の通らないことだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

常陸という同僚の女房でとても若い人が、近くで親しくお仕えしていたが、当然とは言いながら、（悲しみに）たえがたい様子である。（私のそばを）通るときに髪の毛先を見て、「これは建春門院様がお削ぎになったままですね」と言って、そのまま押し当ててうつぶしているので、いっそう（悲しみを）がまんしがたい。

忘られぬ…＝忘れられない建春門院様の面影をどうしようもなく恋い慕って（常陸は）私の黒髪を形見と見るのだろうか。

その後は、私を養育した異母姉の京極殿のもとで、しんみりと日々を暮らしていたが、源平の争乱の世は静かでなく、波の騒ぎに風が繰り返し吹いては、様々にあわただしく今後の歳月につけても、心配に思われることばかりが多い。この（私の）いるところも、人の心遣いがとても苦しいものになっていくので、このままいつまでもいつづけるわけにはいかないと思われるので、母と頼りにする人も思い悩んで、自分はよいけれど、そうはいってもやはり年老いていない人までも、このようないやな世の中に奉公させておいて、あれこれ言われるのも感心できないなどと思い乱れて、二十四歳になった冬、今改めて実家へ帰ってしまったので、あいにくすっかり変わって見慣れない気持ちばかりして、日々を過ごすのだった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○おどろおどろし…①**気味が悪い**。②**仰々しい**。大げさだ。

○としごろ【年頃】…**長年**。

○ところせし【所狭し】…①**場所が狭い**。②**窮屈だ**。③やっかいだ。④堂々としている。⑤仰々しい。

○こころぐるし【心苦し】…①**つらい**。②**心配である**。③**気の毒だ**。

○おぼつかなし…①**はっきりしない**。②**気がかりだ**。③**待ち遠しい**。

○なつかし【懐かし】…①**心がひかれる**。②**親しみやすい**。③昔が思い出されて、慕わしい。

○あからさまなり…①急に。②**ちょっと**。

○やがて…①**すぐに**。②**そのまま**。

○つとめて…①**早朝**。②**翌朝**。

○こうず【困ず】…①**困る**。②くたびれる。

○ことわり【理】…①ものの**道理**。②**理由**。

○さすがに…**そうはいってもやはり**。

○あいなし…①気にくわない。②**つまらない**。③（連用形の形で）**むやみやたらに**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　解答解説

〈解説〉

① 文法問題。選択肢を横に見比べて違いを探し、わかりやすいところから解く。

i この場合は「べし」と「む」の接続と、係り結びの「結びの形」を使うと解きやすい。「候ふ」の活用形が、連体形と終止形に分かれているが、助動詞「べし」が接続しているので、終止形。よって、イとニは削る。次に、「べし」の活用形が、未然形と連用形に分かれている。「ん」（＝選択肢から助動詞「む」）が接続しているので、未然形。よって、さらにホも削る。「む」の活用形が、終止形と連体形に分かれているが、係助詞があるので文末は連体形。よって、正解はハ。

ii 同じく選択肢を横に見比べる。「せんず」という動詞はないのでホは削る。「んず」の部分を、「『むず』で一語」か、「『む』と『ず』」に分ける」かだが、助動詞「ず」の上は必ず未然形なので、助動詞「む」に接続することは不可。よって、「むず」で一語。あとは、「らむ」の識別。「らむ」の上がu段なので、「らむ」で一語の現在推量の助動詞。よって、正解はロ。

② 「なむ」の識別。

i 上が連用形なので、強意（完了）の助動詞「な」と推量系の助動詞「む」の確述用法。選択肢が、さらに「む」の意味を「推量」か「意志」かに分けている。「と」の上の「む」なので「意志」が多い。念のため本文を確認すると、後ろで同じ人物（敬語で判断）が髪を切っていることから、やはり「意志」。よって、正解はロ。

ii 上が、助詞「と」なので、強意の係助詞「なむ」。よって、正解はニ。

③ 重要単語。「年ごろ」は「数年・長年」の意味。よって、正解はニ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④『今鏡』のジャンルは「歴史物語」。「歴史物語」＝『栄花物語』『大鏡』『今鏡』『水鏡』『増鏡』は知っておくべき。よって、正解はホ。

⑤『無名抄』は、鴨長明が書いた歌論書。よって、正解はハ。

〔解答〕

①　i　ハ　ii　ロ　②　i　ロ　ii　ニ　③　ニ　④　ホ　⑤　ハ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。